

平成29年度アンケート（抜粋）

1 今回の研修は有益でしたか。

- 今回の研修を通して、原爆が人々にどのような苦しみを強いるかを具体的に知る事ができたと同時に、その損害がどれほどまでか、そして被爆者がどのような援護を必要としてきたかを知ることができました。また現行の援護について、またその背景についても学びました。
- 放射能災害の経験のない韓国では理論及び訓練を通してのみそれを学んできました。これに反して広島での研修は、一貫して実経験に基づいた教育プログラムなので、参加者は初期対処方法や事後管理まで全体の過程を理解することができます。
- （研修によって）原発や放射能についてよりよく理解できたことが、看護師として実際に病院で患者に接する時のマニュアル作成などに役に立ちそうでした。また、養護老人ホームを訪問させていただいたことで、韓国での自分の進むべき道について考えることができました。

2. この研修で得た知識、または技術を実際にどのように利用するつもりか説明してください。

- （帰国後は）原子爆弾による人体への健康影響および被爆者へ提供される支援制度について、同僚に講義を行う予定です。
- 例えば、疫学、免疫学、細胞遺伝学の分野について、また放射線や緊急医療、長期にわたる被爆者の追跡調査研究などについての様々な研修に参加することが出来ました。これらの新しく得た知識と技術を、ラトビア国内はもとより世界中から来ているリガ・ストラディン大学の学生と（講義を通じて）共有すれば有益だろうと思っています。
低線量の被ばくが人体健康に及ぼす影響についてはまだ全てわかっていませんが、私はチェルノブイリ原発事故の清掃作業員について研究をしたいと思っています。
- アメリカ在住の被爆者が財政・医療助成を受けているかどうか確認するつもりです。もし医療面で不安を持つ人があれば、その人のプライマリーケアサービス側と更なる受給認定について相談するように勧めるつもりです。

3. HIGARE の事業をより改善するために、今回の研修に関するあなたのご意見をお聞かせください。カリキュラムや期間、その他について。

- 講義は興味深く有益なものでした。基礎科学研究と実践的な臨床応用、そして個人の体験談などでバランスのとれた研修でした。
- 研修プログラムはよく整っていて体系的でした。自分は放射線専門医なのでそのプログラムで問題はありませんでした。そうでない人のためには放射線生物学や原爆の基本的な知識をプログラムの初めに入れる方が良いのかもしれません。

4. 広島での滞在について

(1) 広島での生活にどのような印象を持たれたか教えてください。

- 広島は快適で美しい街です。広島で出会った多くの親切で温かいそして平和を愛する皆さんのことをいつまでも忘れません。
- （広島）の街は大変清潔で生命に溢れていました。人々は大変物静かで、好意的で礼儀正しいです。機会があれば、また何度でも訪れたいです。

(2) 広島での滞在中、日常生活で不便を感じたことがあれば教えてください。

- 広島で4週間すごしましたが、少しでも不便に思うようなことはありませんでした。

5. 研修を終えて感じたこと

- 私たちだけではなく多くの研修生が訪れていると思われませんが、形式的な講義ではなく心を込めて誠意のある講義をして頂いたので講義に集中でき、有益な研修でした。
- 期待以上の素晴らしい研修でした。日本の人が大災難を乗り越え、かつ被害者を最後まで手を尽くして養護してきた姿は心に残るもので、日本の底力を感じました。そして経験や様々な研究を通して得た成果を世界に発信することで国際協力をしようとする姿勢は他国の模範となることでしょう。
- 医療政策の研究者として、被爆者のための社会的・経済的な制度や支援についての情報が大変興味深かったです。被爆者に提供される包括的なサービスは素晴らしいと感じました。これまで知らなかったことを多くのことを新たに学びました。